



現代英語の発音の推移について：
研究社『新英和大辞典』第五版を中心にして

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-12-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高, 博教 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00006415

現代英語の発音の推移について

—— 研究社『新英和大辞典』第五版を中心にして ——

高 博 教

序 論

最近（一九八〇年）出版された研究社の『新英和大辞典』第五版はまさに全面的改訂を行なっていて、全く新しい別個の英和辞典と呼んでもよいほどの出来ばえである。本稿では、この第五版を旧版（第四版）と比較検討して、現代英語の発音の推移もしくは変化をさぐってみたいと思う。

この英和大辞典の第一版は一九二七年（昭和二年）、第二版は一九三六年（昭和十一年）、第三版は一九五三年（昭和二十八年）、そして第四版は一九六〇年（昭和三五年）の発行となっている。したがって、第四版と第五版との間には二〇年の歳月のギャップがあり、かねてより大規模な改訂を施す必要が至上命令として厳存していたことが察せられる。

三段組の版面を採用し二五〇〇ページにのぼるこの第五版は、次のような特徴をそなえている。すなわち、収録語数は旧版よりも一〇万語増えて約二五万五千語を数え、語義・訳語も全面的に書きかえられ、専門語の校閲、語源の記述、用法の指示、用例の豊富さなどの面でもすぐれているほかに、第五版はまた一見してわかるように発音表記の

面でも実に正確・精密をきわめているのである。

第五版の発音表記の面での特徴を要領よく言い表わしている文字を少し引用してみよう。

現在の米国および英国の標準的な発音を、紙面の許す限り詳しく記載するように努めた。また、発音表記は、完全な音素表記とすることは差し控えて、本辞典が英語音声学を研究する人たちのための発音辞典としても利用できるように、一部の音素については敢えて異音表記 (allophonic transcription) を採用した。その結果、[ɪ], [ʊ], [t], [ɪ] のような見慣れない記号が使用されている。しかし、実用上は一般の方々はこちらをそれぞれ [i], [u], [t], [ɪ] と置き換えて読んでいただいで結構です。

（『新英和大辞典』第五版の「まえがき」より引用）

本辞典では、今までの発音表記の枠を大きく越えて、「直接耳からはいるアメリカ英語およびイギリス英語の現代の標準的な発音」を、どの英和辞典にも比を見ないほど詳しく表記しています。米国の各放送局や FEZ の放送、あるいは英国の BBC 放送を聴取している人たちのニーズにも応えようとするものです。

〔英語青年〕、昭和五六年七月号より引用)

一 『新英和大辞典』の第四版と第五版(以下、単に第四版、第五版と呼ぶ)において米音として記載されているものは、いわゆる中西部型の「一般米語」(General American)であり、一方、英音として採用されているものは南部イングランドの教育ある人たちによって話される「容認発音」(Received Pronunciation)である。この両者とも、あくまで、それぞれの標準的代表的発音ということであって、それ以外の発音が存在しないという意味では決してない。時と場所によつては、米国でも英音が聞かれ、またその逆もありうることであるが、標準的発音としては取り上げてないのである。

発音の上で、米・英の差がある場合には、第四版では英音を優先させているが、第五版では、米語の優勢と国際情勢を考慮してのことであらうが、逆に米音が先に記されている。

両者の版の、各語に対する発音表示を比較してみるまえに、まず、両者の発音表記そのものを理解しておく必要がある。第四版の「発音記号表」から母音記号を記しておく(表1参照)。この表から感じられることは、英音と米音とを出来るだけ区別して記述しようとの工夫がこらされている点であり、現にこの記号表によつてかなりよくその区別に成功していると言つてよいであらう。

次に、第五版の母音記号表(表2参照)からわかることは、第四版の母音記号体系よりもさらにいっそう個々の音(音素または異音)を厳密に区別・記述することを可能にするばかりでなく、また米音と英音をさらに精密に区別することを可能にするように工夫がなされている点である。

表1 第4版の母音記号表

音声記号		例	音声記号		例
英音	米音		英音	米音	
ɑ:	ɑ:	father, saga	iə	iə	ear, here
ɑ:	æ	after, cast	iər	i(:)r	appearance, hero
ɑ:	ɑə	arm, car	ou	ou	open, show
æ	æ	add, gas	ɔ	ɑ	ox, dollar
ai	ai	eye, nice	ɔ	ɔ:	dog, moth
au	au	out, now	ɔ:	o:	orient, Tory
e	e	end, pen	ɔ:	oə	oar, shore
ei	ei	ace, they	ɔ:	ɔ:	all, saw
ɛə	ɛə	air, care	ɔ:	ɔə	order, north
ɛər	ɛ(:)r	airy, Mary	ɔi	ɔi	oil, boy
ə	ə	abandon, April, moment, circus	u	u	good, put
ə	ə	mother, actor	u:	u:	moon, food
ə:	ə:	earth, bird	uə	uə	poor, tour
i	i	ink, city	uər	u(:)r	assurance, jury
i:	i:	even, bee	ʌ	ʌ	up, money
			ʌr	ə:r	current, thorough

表2 第5版の母音記号表

音声記号	例	音声記号	例
短母音		[ɔɪ]	noise, toy
[ɪ]	lip, gym	[aʊ]	house, town
[e]	end, head	[oʊ əʊ]	go, boat
[æ, æ(:)]	cap, bag	[ɪə iə]	here, clear
[æ, æ(:) a:]	plant, staff	[ɛə ɛə]	care, bear
[ɑ, ɑ(:) ɔ]	top, what	[ʊə ʊə]	poor, assure
[ɔ(:) ɔ]	off, cloth	[ɑə ɑ:]	far, garden
[ʊ]	cook, pull	[ɔə ɔ:]	horse, quarter
[ʌ]	fun, come	[ɔə, oə ɔ:]	soar, mourn
長母音		三重母音	
[i:]	bee, field	[aɪə aɪə]	fire, lyre
[ɑ:]	father, calm	[aʊə aʊə]	flour, power
[ɔ:]	author, law	弱母音	
[u:]	cool, June	[ɪ]	ignore, bargain
[ə: ə:]	term, burst	[i ɪ]	happy, sociality
[ə:(r) ər]	hurry, courage	[ə]	China, oblige
二重母音		[ə ə]	particular, forget
[eɪ]	cake, day	[o(ʊ) ə(ʊ)]	November, location
[aɪ]	ice, fly		

表3 第5版の子音記号表より

音声記号	例
閉鎖音 [t]	water, battle
鼻音 [m]	prism, rhythm
" [n]	cotton, sudden
側音 [l]	feel, bulb
" [ɫ]	tunnel, saddle

表3は第五版の子音記号表の中から、第四版のそれにはなかった、ちよつと変つた記号だけをひろい出したものである。[t]はいわゆる「有声のt」(voiced t)と呼ばれる音であつて、完全な閉鎖音(stop)でなく「歯茎はじき音」(tap)の一種である。[ɫ]は普通の[l]と比べて暗い音色をもつために「暗いl」(dark l)と呼ばれる音である。[ɫ], [m], [n]は子音でありながら音節の中心となる役目を果している場合であつて、「音節主音」(syllabic)と呼ばれる音である。

以上が第四版と第五版との発音記号の体系の概略であるが、そのほかに少し約束ごとがある。第五版では、一音節語にも一般にアクセント記号をつけることによつて、そのアクセントが示してある。たとえば、headは第四版では[hed]となつていたが、第五版では[hɛd]となつている。しかし、これは別に単語のアクセントの強さが変わったことを意味するものではない。

第四版では普通は第一アクセントだけを示し、第二アクセントは第一アクセントよりも先に来るときだけを示すのを原則とした(例、generation [dʒenə'reɪʃən]) のに対して、第五版ではそのような制限は

もうけてはいない。

単語の弱形と強形とは〔i〕を用いて分けてある。たとえば不定冠詞 a の発音は [ə; eɪ, eɪ] のように示される。これが第四版では〔i〕(特に強めれば [eɪ, (普通は弱く) e]) のように示されていて、多くスペースを占める割には情報が少ない。

第四版では省略可能な音は通例イタリック体で示した(例、station [steɪʃən]) の対して、第五版では general [dʒen(ə)rəl] のようにかっこを用いて示してある。

二 第四版と第五版との間には発音表記上の相違がかなりあるにもかかわらず、両者の発音表示が全く同じか、それともごく少しだけ異なるものを本章では取り上げてみよう。比較の便宜上、第四版における英音・米音の順序を逆にして米音のほうを先にあげることとし、以下第四版の発音表示は④、第五版のそれは⑤と略記することにする。

両者の版で発音表示が全く同じ語は当然のことながらいくつもある。たとえば、

abandon [əbændən], advent [ædvənt | ædvənt, -vənt], anaphora
[ənəfərə], confess [kənfəs], cupboard [kʌpbɔ:d | -bɔ:d], hand-
some [hændsəm], London [lɒndən], understand [ʌndəstænd | -də-]

などである。suggest [sə(ɡ)dʒést | -sədʒ] もこの部類に入れてよいが、厳密には〔g〕が④では〔g〕となっていた。また、実にまれな珍しい例であると思うが、④ですべてに音節主音を用いていて、

curtain ④ [kə:tn̩... | kə:tn̩...] ⑤ [kə:tn̩... | kə:tn̩...]

のような語もある。右にあげたような語の発音は両者の版に関する限り差がないものと考えてよいだろう。

次に、両者の版で発音表示に少しだけ差があるものを見てみよう。たとえば、

sudden ④ [sʌdn̩] ⑤ [sʌdn̩]
button ④ [bʌtn̩] ⑤ [bʌtn̩]

などは、④で第一アクセント〔ˈ〕をうつことによつてそれが二音節語であることを示しているが、⑤では〔n̩〕でもって示している。cotton(カ)の部類に入る。

一音節語の desk [dɛsk], come [kʌm], park [pɑ:k | pɑ:k] などでは、④では見られなかった〔ˈ〕がうつてある点だけが違いである。実際の発音に差はないと考えてよい。

やはり一音節語ではあるが、たとえば、

hit ④ [hɪt] ⑤ [hɪt]
heat ④ [hi:t] ⑤ [hi:t]
foot ④ [fʊt] ⑤ [fʊt]
food ④ [fu:d] ⑤ [fu:d]
time ④ [taɪn] ⑤ [taɪn]
house ④ [haʊs] ⑤ [haʊs]

などは、発音表記そのものも多少異っていることに注意する必要がある。というのは、英語で〔i〕と〔ɪ〕、〔u〕と〔ʊ〕の差は単に音の長さの違いでなく、音の質そのものが異なるのである以上、〔i〕と〔ɪ〕、〔u〕と〔ʊ〕とするよりも、別々の記号をあてた⑤のほうが好ましいと言えよう。以

ト ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

happy	④ [hæpi]	⑤ [hæpi -pi]
attribute	n. ④ [ætrɪbjut]	⑤ [ætrɪbjut -ri-]
landscape	④ [lændskeɪp]	⑤ [lænd(ɔ)skɛɪp]
animal	④ [æniməl]	⑤ [ænamət æne-, æni-]
station	④ [steɪʃən]	⑤ [stɛ:ʃən]
even	④ [i:vən]	⑤ [i:vən]
medical	④ [médikəl]	⑤ [medɪkət, -də- -di-]
generous	④ [dʒénərəs]	⑤ [dʒén(ə)rəs]
strength	④ [streŋkθ]	⑤ [strɛŋ(k)θ]
length	④ [leŋkθ]	⑤ [lɛŋ(k)θ]
rhythm	④ [rɪðəm; 英+rɪðəm]	⑤ [rɪðm rɪðm, rɪðm]
prism	④ [prɪzəm]	⑤ [prɪzɪm]
water	④ [wɔ:tə; wɑ:tə wɔ:ta]	⑤ [wɔ:tə; wɑ:tə wɔ:ta(r)]
twenty	④ [twénti]	⑤ [twéntu -ti]
interview	④ [-tə- ɪntəvju:]	⑤ [ɪntəvju: -tə-]
tunnel	④ [tʌnl]	⑤ [tʌnl]
kennel	④ [kenl]	⑤ [kɛnɪ]
apple	④ [æpl]	⑤ [æpɪ]

第四版と第五版の発音表記上の大きな違いの二つは、米音の [ou] に対して英音が「u」と変化してゐることである。この間の事情に關しては稿を改める必要があるが、発音表記は異なっても実際の発音やものは以前と同じと考えてもよいだろう。

go	④ [gou]	⑤ [gou géu]
boat	④ [bɔt]	⑤ [bót bót]
open	④ [óupən]	⑤ [óupən óu-]
only	④ [óunli]	⑤ [óunli óunli]

三 本章では「同じ語でも米の発音が米・英かなり（大きく）異なる語にいろいろ考えつゝゐる」ようにする。また次のような語では「米英の発音はかなり大きく相違することはよく知られてゐる」ようにでも「が」それぞれ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

either	④ [iðə aðə]	⑤ [iðə; aðə aðə(r), ið-]
figure	④ [fɪgə fɪgə]	⑤ [fɪgə -gə(r)]
leisure	④ [li:zə lézə]	⑤ [li:zə; lézə; lézə lézə(r)]
nephew	④ [néfju(:) névjú(:)]	⑤ [néfju: névjú; nɛf-]
schedule	④ [skédʒul jédjuəl]	⑤ [skédʒu:l; -dʒul jédjuəl]
class	④ [klæs klæs]	⑤ [klæ(:)s klæs]
hostile	④ [hɔstɪl hɔstail]	⑤ [hɔstɪ; -tərɪ; hɔstail]
organization	④ [ɔ:gəni- ɔ:gənaɪzɛɪʃən]	⑤ [ɔ:g(e)nɪzɛɪʃən; -nə- ɔ:gənat-, ni-]
secretary	④ [sékretəri sékrətəri; -ri-]	⑤ [sékretəri -rətəri; -rɪ; -tɛrɪ]
issue	④ [íju: ísjú:]	⑤ [íju:; íju íju:; ísjú:]
sure	④ [ʃuə juə; ʃɔ:]	⑤ [juə juə(r); ʃɔ:(r)]
poor	④ [puə puə; pɔ:]	⑤ [puə puə(r); pɔ:(r)]

これらの発音を比較検討してみると、米・英はおたがいに相手の発音を輸入して歩み寄りを見せている場合が多いことがわかる。

hot の発音が米・英で異なることもよく知られている。すなわち、

hot ④ [hɑt | hɒt] ⑤ [hɑt | hɔt]

では、この現象は多くの語に亘って見られる。cotton, dollar, lot, ox, pop, sock など、あげればきりがなし。このほか、dog など、これがあつてはもたぬ語もかなり散見されるのである。

- dog ④ [dɔg | dɒg] ⑤ [dɔ(:)g | dɔŋg]
 frog ④ [frɔg, frɔ:g | frɔŋ] ⑤ [frɔ(:)g, frɔ(:)g | frɔŋg]
 lost ④ [lɔ:st | lɔst, lɔ:st] ⑤ [lɔ(:)st, lɔ(:)st | lɔst]
 bomb ④ [bɔm, bɔm | bɔm] ⑤ [bɔ(:)m | bɔm]
 cf. balm ④ [bɔm] ⑤ [bɔm, bɔ:m | bɔm]

この米音④と英音⑤との対立に関して、さきこつ興味のかき事実があげられる。

- solve ④ [sɔlv | sɒlv] ⑤ [sɔ(:)lv, sɔ(:)lv | sɒlv, sɒlv]
 involve ④ [ɪnvɔlv | ɪnvɔlv] ⑤ [ɪnvɔlv, ɪn-, vɔ(:)lv | ɪnvɔlv, -vɔlv]

これらの語では母音が長音化または二重母音化する傾向を見せていて、この現象は同型の語である evolve, resolve, revolve などにもあつてはみるのである。

四 本章では、第四版と第五版とで発音表示も多少とも異なり、したがって耳で聞いた感じもかなり異なる語について進めてみよう。米音では news は [n(j)uz] となるのであるが、このように [j] 音を落す傾向は米国に多いと推測する。

- superb ④ [sju:pɔ:b, se- | sju(:)pɔ:b] ⑤ [supɔ:b, se- | s(j)upɔ:b, s(j)u-]
 superlative ④ [sepɔ:, sju- | sju(:)pɔ:lətɪv] ⑤ [supɔ:lətɪv, se-, su- | s(j)upɔ:lət-, s(j)u-]
 suitable ④ [sju:təbl] ⑤ [sju:təbl | s(j)u:t-]
 pollution ④ [pju: | pelju:ʃən] ⑤ [pɔljʊ:ʃən | -ju:ʃ-]

これとは別に、[tʃ] が [tʃ] が [p] に変化してゆく過程もつかがわれる。たとえば

- actual ④ [-tʃu- | æktʃuəl] ⑤ [æktʃuət, -tʃuəl | -tʃuət, tʃuəl, -tʃuət, tʃuəl]
 mature ④ [-tʃjua- | matjua] ⑤ [mat(j)jua-, tʃjua- | tʃjua(r), -tʃjua(r)]
 educate ④ [ɛdʒu- | ɛdju(:)keɪt] ⑤ [ɛdʒu:kɛɪt | ɛdju-, ɛdʒu-, ɛdju-, ɛdʒu-]

母音が変化する傾向も見られる。いくつか例をあげてみよう。

- accept ④ [æksɛpt, æk-] ⑤ [æksɛpt, æk-, ɪk-, ek- | æk-, æk-]

- advice ④ [advá:is] ⑤ [advá:is, æd- | æd-]
- ascend ④ [asént] ⑤ [asént, æs-]
- ascend ④ [asénd] ⑤ [asénd, æs-]
- aberrant ④ [æbérant] ⑤ [æbérant, æ-]
- accomplish ④ [ækám- | ækámplj̥] ⑤ [ækámplj̥, æk-, -kám- | ækám-, ækám-]
- (兼重びだ^ㇿに^ㇿ重^ㇿび^ㇿな^ㇿ變音^ㇿや^ㇿ母^ㇿの^ㇿ弱^ㇿ化^ㇿ)
- want ④ [wánt, wɔ:nt | wánt] ⑤ [wɔ:(:)nt, wánt, wánt | wánt] (ㇿ^ㇿ兼^ㇿ重^ㇿび^ㇿ注^ㇿ意^ㇿ)
- objective ④ [ab- | ɔbdʒékativ, ab-] ⑤ [ɔbdʒékativ, ab- | ab-, ɔb-]
- apparatus ④ [-rei-, -rætəs | æpəreɪtəs] ⑤ [æpəreɪtəs, -reɪt- | -reɪt-]
- transparent ④ [trænspe(:)rant | trænspeárant, trans-] ⑤ [trænspe(:)rant, -pæ̀r- | trænspeá̀r-, trans-, trans-, trænz-, trænz-, trænz-, -péə-]
- character ④ [-tə | kærɪktə, -rɪk] ⑤ [kærɪktə, kær-, -rɪk- | kærɪktə(r), -rɪk]
- process ④ [prɔ́s- | prɔ́uses] ⑤ [prɔ́ses, prɔ́us-, -sis, -sas | prɔ́uses]
- story ④ [stɔ́ri | stɔ́rɪ] ⑤ [stɔ́rɪ, stɔ́r- | stɔ́rɪ]

右の例にはいろいろの場合が含まれていて、母音が弱化したり強化

したり、長音化したり二重母音化したりしていて、一律には論じられ
ない。
次は「スプリング発音に関する例をいくつか見てみよう。よく引か
合らぬ出されるのが、

- often ④ [ɔ:ft- | ɔ:(:)fən, -ftən] ⑤ [ɔ:(:)fən, ɔ:(:)fən | ɔ́fən, ɔ́fən]

であって、この記述からわかるように(ㇿ)を發音する英音が米音にまで
及んでおもしろ。しかしこの現象は soften といふ語には全く見られな
い。forehead には逆に米音が英音に入り込んでおもしろいことがわかる。

- forehead ④ [fɔ́rɪd, fár-, fɔ́həd | fɔ́rɪd] ⑤ [fɔ:(:)rɪd, fár-, -rad, fɔ́həd, fɔ́ə- | fɔ́rɪd, -red, fɔ́:həd]

その他の例を見よう。

- parliament ④ [páə- | pá:ləmənt] ⑤ [pá:ləmənt, -ljə- | pá:lə-, -lɪ-, -ljə-]
- associate *n.* ④ [asóʃjəɪt] ⑤ [asóʃjəɪt, -si- | asóʃjɪ-, -si-]
- appreciate ④ [əprɪʃjəɪt] ⑤ [əprɪʃjəɪt | -jɪət, -sjəɪt]
- racial ④ [reɪʃəl] ⑤ [reɪʃəl | -jəl, -jɪəl]
- spacial ④ [speɪʃəl] ⑤ [speɪʃəl | -jəl, -jɪəl]
- cf. social ④ [sóʃjəl] ⑤ [sóʃjəl | sɔ́u-.]

species ④ [spi:ʃi:z, -ʃiz]

⑤ [spi:ʃi:z, -ʃiz, -si:z, -siz, -siz | -ʃi:z, -ʃiz]

fortune ④ [fʌ: - | fʌ:tʃən]

⑤ [fʌ:tʃən, -tʃən | fʌ:tʃən, -tʃən, -tʃən]

conclude ④ [kənklú:d] ⑤ [kənklú:d | kən-, kəŋ-]

concrete *adj.* ④ [kənkrít, kánkrit | kánkrit]

⑤ [kánkrit, kánkrit | kánkrit, kɔŋ-]

米・英のいずれかに現われたアクセント型が、相手の国に及んだ例もある。

almost ④ [ɔ:lmoust, ɔ:lmoust | ɔ:lmoust, -moust]

⑤ [ɔ:lmoust, - -ɔ:, ɔ:mast | ɔ:moust, ʃt-, -ɔ:, ɔ:mast]

decade ④ [dekeid, dekeid | dekeid, -kad]

⑤ [dekeid, dekeid, di-, da- | dekeid, -kad, -krid, dikeid, de-]

research *n.* ④ [risə:ʃ, risə:ʃ | risə:ʃ]

⑤ [risə:ʃ, re-, risə:ʃ | risə:ʃ, re-, risə:ʃ]

この research について興味がある人は、④と⑤のミスマッチのアクセント型が逆転しているのを確かめる。④と⑤のミスマッチは Kenyon & Knott の発音辞典に於いたのびあらいが、⑤のほうには Webster の New International Dictionary の第三版（一九六六年）と The Random House Dictionary（一九六六年）に於いたとみえて、アクセント型の順序が逆になり、英音と同じアクセント型にもなっている。この手直しは

predecessor ④ [pri:disə:sə]

predecessor ④ [pri:disə:sə, pri:disə:sə | pri:disə:sə, pri:disə:sə]

⑤ [pri:disə:sə, pri:d-, ɔ:-ɔ:- | pri:disə:sə(r, ɔ:-ɔ:-)]

なった例とは逆に、④にあった標準音が⑤では米音から消失している場合もある。たとえば、

television ④ [teliviʒən, -viʒ-]

⑤ [telaviʒən | teliviʒən, -lə-, ɔ:-ɔ:-]

がそうである。また、④の英音のみが見えなくなった [intərəstɪŋ] は⑤の米・英音からは全く姿を消している。④の米・英音とも終りに記してあった [æmətə:ʃ]（または [æmətə:ʃ]）は、⑤の米音からは消え去っている。④の英音には見えなかった ski [ʃi:] も⑤からは全く姿を消している。

最後に興味があるのは、日本語から英語に入った単語である。④と⑤とで多少とも発音に変化をきたしているものもあるので例をあげてみる。

geisha ④ [geiʃə] ⑤ [geiʃə, gi:- | géi-]

harakiri ④ [hà:rakiri, hã:ra- | hã:ra-] ⑤ [hã:rakiri, -ri- | hã:ra-]

kabuki ④ [kã:buki] ⑤ [kã:buki, -buki, kã:buki | kabuki]

kimono ④ [kimóna, -nou | kimónou]

⑤ [kimóna, ka-, -nou | kimónau]

⑤で新しく付け加わったものには、

- ikebana ⑤ [i'kei'bá:na, i:k-, -kə-, -kr-]
 pachinko ⑤ [pa'tʃiŋ'kəu | -kəu]
 sashimi ⑤ [sá:ʃi'mi | -jimi]
 sushi ⑤ [sú:ʃi | -ʃi]
 sumo ⑤ [sú:məu | -məu]

五 英語ではアクセントの位置の異同が品詞の別を示す場合が多い。第四版と第五版に関する限りアクセントの区別がよく守られているものが多い。absent, attribute, conduct, insult, object, produce, progress などがある。

品詞別のアクセントがそれほど明確でない例として export の場合を調べてみる。

- export ④ [v. i'kspɔ:t, ékspɔ:t | ekspɔ:t, ékspɔ:t; n., adj. ékspɔ:t | ékspɔ:t]
 ⑤ [v. ekspɔ:t, iks-, pɔ:t, ékspɔ:t, -pɔ:t | ekspɔ:t, iks-, ékspɔ:t; n., adj. ékspɔ:t, -pɔ:t | -pɔ:t]

となっている。要するに名詞・形容詞の場合は「 」型、動詞のときは「 」型のほかに「 」型のアクセントもありうるという点で、④と⑤の間ではアクセントの位置に関して変化はなしと見ることができよう。同じような例をアクセントの位置のみに注目して簡潔に列挙してみよう。

- import ④ [v. , (export と対照的にはしばしば)]

- ; n. |]
 ⑤ [v. , | , ; n. |]
 increase ④ [v. | , ; n. |]
 ⑤ [v. , | , ; n. , | ,]
 decrease ④ [v. ; n. ,]
 ⑤ [v. , | , ; n. , | ,]

- conflict ④ [n. | ; v.]
 ⑤ [n. | ; v. , |]
 contrast ④ [n. | ; v.]
 ⑤ [n. | ; v. , |]

- frequent ④ [adj. ; v.]
 ⑤ [adj. ; v. , |]
 perfect ④ [adj. ; v. | ,]
 ⑤ [adj. | ; v. , | ,]

- protest ④ [n. ; v.]
 ⑤ [n. ; v. , |]
 transport ④ [v. ; n.]
 ⑤ [v. , | ; n.]

- supplement ④ [n. sápliment; v. sápliment]
 ⑤ [n. sápliment | -li-; v. sápliment, -ment |

supplement の -ment で終る語が動詞として用いられた場合は興味をかける。

- supplement ④ [n. sápliment; v. sápliment]
 ⑤ [n. sápliment | -li-; v. sápliment, -ment |

sáplmènt, ㄨㄨㄨ

アクセントに関する限り、名詞の場合には変化がないけれど、動詞の場合は米音では第二アクセントを付けないこともあり(つまり名詞と同じ発音となる)、英音では最後の音節に第一アクセントを移すなど、新しい変化もつかかわれる。もう一つ例をあげると、

complement ④ [n. kám- | kómpliment; v. kám- |

kómpliment]

⑤ [n. kámplament | kómplr; v. kámplamènt |

kómpliment, ㄨㄨㄨ]

compliment ④⑤とも上の complement と全く同一。

ornament ④ [n. óa- | ónamant; v. óa- | ónamant]

⑤ [n. ónamant | ó; v. mènt, mant | -mènt]

最後に record にいって一言おきたい。この語が動詞として用いられる場合は「――」型、名詞の場合には「――」型のアクセントをとることはよく知られているが、その名詞の場合も米・英で発音が少し異なる。

record ④ [n. rékəd | rékɔ:d]

⑤ [n. rékəd, -kɔəd | -kɔ:d]

すなわち、米音では「レカッド」が主流であるのに対して、英音では「レコード」のように、第二アクセントはおかないまでも第二音節をはっきりといていねいに発音する傾向があることを物語っている。

の点に関して B. Foster はその著 *The Changing English Language* (p. 238) でちよつと興味ぶかいことを述べている。英国の若者の中には、時代の先端をいこうとして、好んで米国流に「レカッド」と発音する者がいるとのことである。

六 単語のアクセントの変化は、単なる子音や母音の変化にもまじって、その単語の発音を著しく変えてしまつたように思われる。本章ではアクセントの変化に原因する発音の変化を取り上げてみようと思つ。最も著しい例として名詞の decoy と形容詞の mediocre を見よう。

decoy ④ [n. dikóí, dikɔi | dikóí; v. dikóí]

⑤ [n. dikɔi, dikóí, da- | dikɔi, dikóí, da-;

v. dikóí, da-, dikɔi | dikóí, da-]

mediocre ④ [mídiókə, mídiókə | ka]

⑤ [mídiókə, ㄨㄨㄨ | mídiókə(r, méd,

ㄨㄨㄨ)]

要するに、名詞としての decoy は「――」型から「――」型のアクセントに大勢が移ったこと、また逆に mediocre では「――」型から「――」型のアクセントに移ったことを物語っているのである。これらの語ほど著しくはないが同じような傾向を示している例を、アクセントの位置のみに注目していくつかあげてみよう。名詞としては、

idea ④ 「――」 ⑤ 「――」

access ④ 「――」 ⑤ 「――」

caricature ④ [ˌkærɪˈkjʊlə] ⑤ [ˌkærɪˈkjʊl] | ˌkærɪˈkjʊlə, ˌkærɪˈkjʊlə
 advertisement ④ [ədˈvɜːtəɪzmənt, ədˈvɜːtɪz | ədˈvɜːtɪs-]
 ⑤ [ədˈvɜːtáɪzment, ˌkærɪˈkjʊlə, ədˈvɜːtɪzment |
 ədˈvɜːtɪsmənt]

ambivalence ④ [æmˈbɪvələns | æmˈbɪvɪələns]
 ⑤ [æmˈbɪvələns | æmˈbɪvɪəl, æmˈbɪvəl-]
 commonwealth ④ [ˌkɒmənweɪlθ] ⑤ [ˌkɒmənweɪlθ, ˌkɒmənweɪlθ]

などがあげられるが、次に動詞の例をあげると、まず最初に興味ぶかいのは、contribute と distribute に関して従来の発音に新しい発音が加わっている点である。

contribute ④ [ˌkɒntrɪˈbjʊt] ⑤ [ˌkɒntrɪˈbjʊt, kɒntrɪˈbjʊt]
 distribute ④ [dɪˈstrɪbjʊt] ⑤ [dɪˈstrɪbjʊt, dɪˈstrɪbjʊt]

しかしながら、この現象は attribute には及んでいない。この場合は、この attribute には語頭に第一アクセントをおいて発音する名詞の用法がすでにあるからであろう。その他の例を少し引いておこう。

recommend ④ [ˌrɛkəˈmɛnd] ⑤ [ˌrɛkəˈmɛnd, ˌrɛkəˈmɛnd]
 remonstrate ④ [ˌrɛmənˈstrɛt] ⑤ [ˌrɛmənˈstrɛt, ˌrɛmənˈstrɛt]
 translate ④ [ˌtrænzleɪt] ⑤ [ˌtrænzleɪt, ˌtrænzleɪt]

次に形容詞に移る。admirable, comparable, reputable などの語では語頭に第一アクセントをおくとは有名であるが、この事実は第五版でも変りがない。ところが, lamentable ではアクセントに変化が見られるのは注目してよい。

lamentable ④ [ˌlæməntəbəl] ⑤ [ˌlæməntəbəl, ˌlæməntəbəl]
 その他の例をあげてみよう。

robust ④ [ˌrɒbʊst] ⑤ [ˌrɒbʊst, ˌrɒbʊst]
 intricate ④ [ɪnˈtrɪkət] ⑤ [ɪnˈtrɪkət, ɪnˈtrɪkət]
 sonorous ④ [səˈnɒrəs] ⑤ [səˈnɒrəs, ˌsɒnərəs]
 contemplative ④ [kɒntemˈplətɪv] ⑤ [kɒntemˈplətɪv, ˌkɒntemˈplətɪv]

demonstrable ④ [ˌdɛmənˈstrəbəl] ⑤ [ˌdɛmənˈstrəbəl, ˌdɛmənˈstrəbəl]
 ⑥ [ˌdɛmənˈstrəbəl, ˌdɛmənˈstrəbəl]

disciplinary ④ [dɪˈsɪplɪnəri] ⑤ [dɪˈsɪplɪnəri, ˌdɪsɪplɪnəri]
 illustrative ④ [ɪləˈstrətɪv] ⑤ [ɪləˈstrətɪv, ˌɪləstrətɪv]

pejorative ④ [ˌpeɪjəˈrɪtɪv] ⑤ [ˌpeɪjəˈrɪtɪv, ˌpeɪjəˈrɪtɪv]
 ⑥ [ˌpeɪjəˈrɪtɪv, ˌpeɪjəˈrɪtɪv]

substantive ④ [səbˈstæntɪv] ⑤ [səbˈstæntɪv, ˌsɒbstəntɪv]

次のような形容詞・副詞のアクセントも興味ぶかい。

absolute ④ [ˌæbsəˈlu:t] ⑤ [ˌæbsəˈlu:t, ˌæbsəˈlu:t]
 absolutely ④ [ˌæbsəˈlu:tli] ⑤ [ˌæbsəˈlu:tli, ˌæbsəˈlu:tli]
 necessary ④ [ˌnɛsəˈsɪri] ⑤ [ˌnɛsəˈsɪri, ˌnɛsəˈsɪri]
 necessarily ④ [ˌnɛsəˈsɪrɪli] ⑤ [ˌnɛsəˈsɪrɪli, ˌnɛsəˈsɪrɪli]

七 これまで第四版と第五版を比較検討してきたわけであるが、その結果は次のようにまとめることができるだろう。

(1) 発音は一応は固定していてそう簡単には変化しないように見えるが、二〇年の歳月の間には、単なる音変化ではなくてアクセントの位置まで変わってしまった単語がある。例、*mediocre*, *decoy* (*n.*), *remonstrate*.

(2) スペリング発音がかなり行なわれるようになってきた。例、*often*, *parliament*, *species*.

(3) 同じ単語でも米・英で発音に差がある場合には、お互に相手の発音も取り入れて両者がかなり接近する傾向が強い。例、*either*, *issue*, *record* (*n.*).

(4) 伝統的な発音から(その語の品詞に)より、自然な発音(特にアクセント)に変わる傾向もかなり見られる。その場合、同型の他の語からの類推・影響によることが多いと思われる。例、*absolutely* *pejorative*, *decoy* (*n.*) (increase, export のように名詞・動詞でアクセントが異なる語からの類推で *decoy* (*v.*) と区別したと考えられる) *idea* (名詞は語頭にアクセントがある場合が多いことから) *lament* *table* (もとの *lament* [lament] の発音から) *access* (success の発音からの類推であろう) *accomplish* [akəm-] (come の発音にまねて)。

(5) 発音の変化には多少の規則性も見られるが、全く不規則な場合も多し。例、*contribute*, *distribute*; *solve*, *involve*, *revolve*; *supplement*, *complement* の新しい発音。これに對比して *hot*, *dog* *solve* の母音の関係、*often*, *soften* の [t] 音など。

(6) 英音では各音節を比較的はつきりと発音する傾向がある。例、*often*

[ˌt-], *fortune* [ˌfju:n], *corridor* [ˌdɔ:(r)], *water* [ˌtə(r)] (米音の [ˈtə] である)。一方、米音では第二アクセントをはつきりおく傾向が強い。

例、*secretary*, *necessary*.

(7) 単語の発音の変化ばかりではなくて、発音表記の方法そのものも、多少の改変が加えられている。例、*hit* [hit] (一音節語に第一アクセントがうたれ、[I] の記号も以前のと異なっている。英音 *go* [eɪ] の表記も大きな改変の一つであり、*water* [ˌtə], *apple* [æpl] などの表記も目新しい。また、「あいまい母音」[ə] は第四版ではイタリック体で記され、省略可能であることが極めて多かつたが、第五版では時折()内に記され省略されることが少なくなった。

右にまとめた発音(表記)上の傾向は、あくまでも第五版を第四版と比較検討した限りにおいての結論であるが、現代英語の発音の推移もしくは変化傾向をかなりよく捉えているものと確信するものである。というのは、第四版の発音表記はまずくのものとしても、第五版は発音辞典としてみても今のところ最新最大のものであって、これをベースとして用いる以上かなり信頼のおける結果がえられるはずであるからである。

最後に、私の眼にふれた発音表示の誤りを一つ二つ指摘しておきたい。ever [ɛvə] | va(r) ɔ. refusal [rɪfú:zəl;...] であるが、もちろんこれらはそれぞれ [ɛvə | éva(r)], [rɪfú:zəl;...] が正しい。

(一九八一年九月三十日脱稿)

研究材料

研究社『新英和大辞典』第四版 一九六〇年
研究社『新英和大辞典』第五版 一九八〇年